

二〇二二年 千葉大本番レベル模試 国語（教育学部）

解答・採点基準

全2問 80分 100点満点

一 (50点)

〈現代文 日本経済新聞、東京新聞、毎日新聞〉

解答

問一 a 〓冠 b 〓配 c 〓墨 d 〓著 e 〓実 (各1点)

問二 万年単位で過去を見つめ、いつもと違った視点から今と未来を考えることにより、温暖化や異常気象、自然災害と向き合い、社会の持続可能性を追求することに役立つという意味。(5点)

問三 松山基範教授の大胆な仮説は、地球の内部構造が解明されていなかった当時、学界からはほとんど無視された。(五〇字)(5点)

問四 Ⅱの記事が地学という学問の性質や、それを学ぶことの重要性に着眼し、チバニアの誕生をきっかけとして地学をより身近なものにすべきと主張しているのに対して、Ⅲの記事は地球磁場の逆転が学会で認められるまでに要した時間に着眼し、時間もお金もかかる基礎科学研究を長い目で見る必要があると主張している。(12点)

問五 人間の歴史における最も古い用例を引き合いに出すことで、地球史の時代の名称として「千葉」の名が用いられたのは、それよりも遙か昔の時代に対してであることを読者に印象づける効果。(8点)

問六 両者ともに最近の話題を伝える一方で、単なる客観的な情報の伝達に留まらない文章である点では共通している。しかし、Ⅱ・Ⅲのような文章が、話題に関する新聞社の主張や見解を伝えるために書かれているのに対して、Ⅳのような文章は、レトリックや親しみやすい表現を用いることで読者に面白みを提供している。(15点)

採点基準

- ▼ 採点に際しては、必ず解説を参照して、許容される解答を確認すること。
- ▼ 小問ごとに、**加点法・減点法併用**で採点する。**0点**以下になった場合、その問は**0点**とする。
- ▼ 「X」という内容(？点)の項目は、答案全体がどのような文章構成であるかに関わらず、**答案の一部に要素Xが含まれているかどうかを判断する。**
- ▼ 「X1とX2がYという論理関係になっていなければ、？点減点」の項目は、**要素X1とX2が両方とも揃っている答案だけを判断の対象にする。**つまり、X1とX2のいずれかでも欠けている場合は、Yについての減点はない(Yの欠けによって失点しているので、さらに減点する必要はない)。
- ▼ 各々の採点項目について、**マルかバツかの二択で判断すること。**誤字脱字以外の部分点は原則として認めない。

問一 (5点満点)

1. a 〓冠 b 〓配 c 〓墨 d 〓著 e 〓実

***各1点**

***部分点なし。**

問二 (5点満点)

1. 地学を学ぶことは「万年単位で過去を見つめ、いつもと違った視点から今と未来を考えることである」という内容 (2点)
2. 地学を学ぶことで「温暖化や異常気象、自然災害と向き合うことができる」という内容 (1点)
3. 1・2により「**社会の持続可能性を追求するのに重要である**」という内容 (2点)
4. 「どのような意義があると考えられるか」という問いに答える形の文章になっていない場合、**1点減点。**

問三 (5点満点)

1. 「**松山基範教授の大胆な仮説**」という内容 (1点)

***「大胆」に当たる内容が欠けている場合は不可。**

***松山教授が仮説を発表した当時に「大胆」と評されていた、という内容に読み取れる場合、不可。(「大胆」と評しているのは、あくまでも記事の筆者であるから)**

2. 「**当時は地球の内部構造が解明されていなかった**」という内容 (2点)
3. 1は「**学界からはほとんど無視された**」という内容 (2点)
4. 「**どのような扱いを受けたか**」という問いに答える形の文章になっていない場合、**1点減点。**
5. **制限字数(四〇字〜五〇字)に収まっていない場合、5点減点。**

問四 (12点満点)

1. **Ⅱ**の記事が「**地学の性質や、地学を学ぶことの重要性に着眼している**」という内容 (2点)

***「地学の性質」に当たる内容がない場合、1点減点。**

***「地学を学ぶことの重要性」に当たる内容がない場合、1点減点。**

2. **Ⅱ**の記事が「**チバニアンの誕生をきっかけとして地学をより身近なものとするべきと主張している**」という内容 (4点)

***「チバニアンの誕生をきっかけとして」に当たる内容がない場合、2点減点。**

***「地学を身近なものとするべき」については、「地学の存在感を強めるべき」などの表現でもよい。「教育現場**

での強化をすべき」など具体的な内容しか書けていない場合は不可。

3. ㊦の記事が「地球磁場の逆転が学会で認められるまでに要した時間に着眼している」という内容(2点)。

*「チバニアン誕生の背景にある、日本における地球磁場の逆転に関する研究の歴史」と、「その長さ」という二点を踏まえられていれば、幅広い表現を許容する。

4. ㊦の記事が「時間もお金もかかる基礎科学研究を長い目で見る」ことが必要だと主張している」という内容(4点)

*「時間もお金もかかる」に当たる内容がない場合、2点減点。

*「時間もお金もかかる」に当たる内容は、「経済的に役に立つ研究かを重要視し、すぐに結果を求めるのではなく」という方向性からの説明でもよい。

5. 「どのような違いがあるのか」という問いに答える形の文章になっていない場合、1点減点。

問五(8点満点)

1. 下総の防人の歌は「人間の歴史における最も古い用例である」という内容(2点)

*「人間の歴史」の語がない場合は不可。

2. 「地球史の時代の名称として「千葉」の名が用いられた」という内容(2点)

3. 「2の時代は1よりも遙か昔である」という内容(2点)

4. 引用には「3を印象づける(強調する)効果がある」という内容(2点)

*「表現意図・表現効果」の説明として適切であれば、幅広い表現を許容する。単に「3を説明するため」などと書いている場合は不可。

5. 「何のために引用されているか」という問いに答える形の文章になっていない場合、1点減点。

問六(15点満点)

1. 共通点として「最近の話題(ニュース)を伝えているが」という内容(2点)

2. 共通点として「単なる客観的な情報の伝達だけに留まらない文章である」という内容(3点)

*「主観的な内容を含む」ことを説明できなくても、「客観的な情報の伝達だけに留まらない」ことが説明できている場合は不可。

3. ㊦・㊧のような文章について「話題に関する新聞社(筆者)の主張や見解を伝えるために書かれている」という内容(5点)。

*「ために」など、㊦・㊧のような文章が書かれる目的」を説明するための表現が欠けている場合、2点減点。

*㊦・㊧の記事に書かれている具体的な主張内容をまとめているだけでは不可。

4. ㊦のような文章について「レトリックや親しみやすい表現が用いられている」という内容(2点)

*文章表現や修辞技法に工夫が凝らされていることを説明できなければ、幅広い表現を許容する。

*㊦の記事に用いられている具体的なレトリックを列挙しているだけでは不可。

5. ㊦のような文章について「読者に読み物としての面白みを与えている」という内容(3点)

*4によって生まれる効果を説明できなければ、幅広い表現を許容する。

6. 「どのような共通点と違いがあるか」という問いに答える形の文章になっていない場合、1点減点。

二 (五〇点)

〈古典 竹西寛子『王朝文学とつき合う』、李白「贈汪倫」〉

解答

問一 (1) どれほど思慮深くもない私でも

(2) この歌は、「そこへ行くだけでも言ってください」と行き先を尋ねてきた人への応答であり、「そこへ行く」の「そこ」と、谷の「底」とを掛けている。

問二 イ

問三 李白乗_レ舟将欲_レ行

問四 千尺あるという桃花潭の淵の深さも、汪倫が私を見送る惜別の情の深さには及ばない。

問五 (1) 私達が別れを惜しいと思う人が、もしかして留まってくれるかと、鴨が一斉に群れるように私達は大挙してやって来てしまった。

(2) 自分の船出を見送る人々の贈歌から、李白の船出を汪倫が歌いながら見送ったという「贈汪倫」の上二句を想起し、この漢詩の下二句に汪倫の惜別の情は千尺の淵より深いとあるのをふまえて、あなたの惜別の情は底知れぬ海のように深いと返歌した。

問六 せっかく土佐守らが、漢詩をふまえた和歌の贈答で風流に別れを惜しんでいたのに、自分が酒を飲み終わったからといって早く出発しようとして、「潮が満ちた。風も吹くだろう」と騒いで一行に乗船を促し、水を差したから。

問七 エ ↓ ウ ↓ ア ↓ オ ↓ イ

採点基準

▼ 採点に際しては、必ず解説を参照して、許容される解答を確認すること。

▼ 小問ごとに、減点法で採点する。0点以下になった場合、その問は0点とする。

問一

(1) (4点満点)

1. 「いかばかり」を、「どれほどに、どんなにか」の意味に訳していなければ、1点減点。
2. 「心深く／も／あら／ぬ」を、「思慮深くもない」、「思いやり深くもない、情け深くもない」または「信心深くもない」の意味に訳していなければ、2点減点。

*「こちらの」も「は強いて訳出していなくてもよい」。

3. 「身」を、「わが身、自分、私」の意味に訳していなければ、1点減点。
4. 「も」(句末)を、「…でも、…でさえも」(類推)の意味に訳していなければ、1点減点。

*「…であっても」、「…といえども」も許容する。

(2) (4点満点)

1. 谷の「底」を掛けていると指摘していなければ、2点減点。
2. 「そこへ行く」の「そこ」(＝場所を指す代名詞)を掛けていると指摘していなければ、2点減点。
3. 行き先を尋ねられて応答する(はぐらかす)歌であることを説明していなければ、2点減点。

*詞書の主旨を適切にまとめればよい(解説中の訳文を参照のこと)。

問二 (4点)

問三 (4点満点)

* 完全解答。

問四 (7点満点)

1. 「不及」を、「淵(池、川、水)の深さが情の深さに及ばない」という意味に訳していなければ、4点減点。
2. 「千尺あるという桃花潭の淵(池、川、水)の深さ」などと補っていないければ、1点減点。

*「桃花潭の深さも、汪倫が私を見送る惜別の情の深さには及ばない。」という答えは、項目1で減点されないが、項目2で減点される。

3. 「汪倫送我」を、「汪倫が私を見送る」の意味に訳していなければ、1点減点。
4. 「情」を、「惜別の情」や「友情」などと補って訳していなければ、1点減点。

(次頁に続く)

問五

(1) (7点満点)

1. 「惜し／＼と思ふ／＼人」を、「私達が別れを惜しいと思う人が」の意味に訳していなければ、2点減点。

*「思ふ」の主語が詠み手であることを明確にしていなければ不可。

*「別れを」と補っていないければ不可。

2. 「…や／＼留る／＼と」を、「もしかして留ま(っ)てくれ(るか)と思つて()」の意味に訳していなければ、2点減点。
点。

*「や」の疑問の意味が訳出されていなければ不可。

3. 「葦鴨のうち群れてこそ」を、「鴨が群れるように」の意味に訳していなければ、2点減点。

*鴨の群れる様子で、詠み手らが来る様子を喩えている、ということも明確にしていなければ不可。

*「うち」を強いて訳出していなくても許容する。

4. 「われは来にけれ」を、「私達は来てしまった」の意味に訳していなければ、2点減点。

*完了と過去の両方が訳出されていなければ不可。

*「われ」を「私」と訳しているものは許容する。

(2) (8点満点)

1. 自分の船出を歌って見送つてもらおうという状況の共通性を指摘していなければ、3点減点。

2. 見送る人の惜別の情を、「贈汪倫」は千尺もの淵より深いと喩え、和歌Cは底知れぬ海のように深いと喩えていると指摘していなければ、3点減点。

*それぞれの比喩の内容については解説中の訳文を参照のこと。

3. 状況の共通性から「贈汪倫」を想起し、「贈汪倫」の比喩にならつたと説明していなければ、2点減点。

*状況の共通性や比喩の違いを指摘するだけでなく、古い漢詩を新しい和歌がどのように参照しているかという視点でまとめられているかどうかを見る。

4. 「どのように…ふまえているか」という問いに答える結び方になっていなければ、1点減点。

*和歌C(またはその詠み手)を主語とする動詞で文を結んでいるものを幅広く許容する。

問六 (8点満点)

1. 「せっかく一行が別れを惜しんでいたのに、それに水を差したから」という主旨の答えでなければ、8点減点。

2. 「一行の別れの場面は、漢詩を踏まえた和歌の贈答であり、船頭はその風流を解さなかった」という旨の指摘がなければ、4点減点。

3. 「自分が酒を飲み終わったからといって」という内容がなければ、1点減点。

4. 「早く出発しようとした」という内容がなければ、1点減点。

5. 「騒いで乗船を促した」という内容がなければ、1点減点。

6. 「なぜ…このような評価を受けているのか」という問いに答える結び方になっていなければ、1点減点。
*「…から」「等を許容する。」

問七 (4点)